2022年
3
月号

京都市保育園保護者会連合協議会
市保連ニュース

発行　京都市保育園保護者会連合協議会
604-8854　京都府京都市中京区壬生仙念町 30-2
ラボール京都（京都労働者総合会館）5 階
TEL.075-801-8810 / FAX.075-822-6220
E-mail: info@shihoren.net / http://www.shihoren.net
京都都市保育園保護者会連合協議会

市保連オンライン講演会企画・開催報告

考えてみませんか？“子どもが大事にされる社会”のこと

２月６日（日）14 時から、オンライン講演会「考えてみませんか？“子どもが大事にされる社会”のこと」を開催しました。政治学とフェミニズムを専門とする研究者の岡野八代さん（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教員）をお迎えして、コロナ禍で注目を集める「ケア」の重要性と、保育や子育て、そして子どもが大事にされる社会について考えました。当日のお話の一部をご紹介します。

❑基調講演から

第１部の岡野八代さんの講演「なぜ、子どもが大切にされない社会になっているのか？」では、「なぜ／なんのため」に「子どもを大事にするのか」を問うことが大切であるとして、歴史的に国家は国に貢献する子ども像を描き、同時に子どものケアを家庭、特に女性に押し付けてきたこと、しかし、子どもを大事にするのは「子ども自身のため」であり、国は子どものための予算を増やすべきであることなどをお話しいただきました。

❑保育士／保護者として

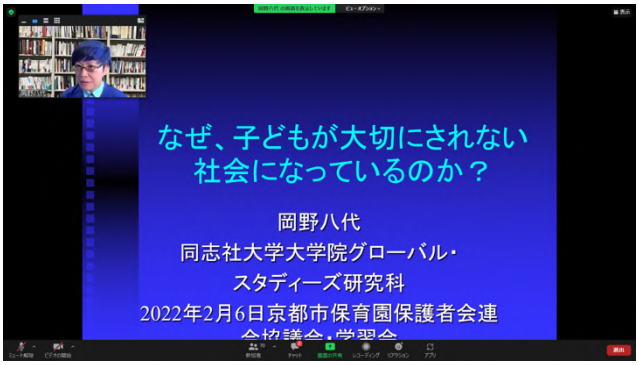
つづく第２部では、３人の保護者の方にスピーチをお願いしました。うち２人は保育制度の影響を公私で受ける子育て中の保育士（保育士保護者）です。

保育士であり母である荒堀さんからは、保育士として保護者には子どものためにして欲しいことを伝えてきたが、保護者になりその苦労がわかったこと、保育士としては子どもとの生活を保護者と共有したいが、保護者としての自分は余裕のない生活を送っていること、保育士としては保護者同士の繋がりが大切だと思うが、実際に繋がりを作るのは意外に難しいことなど、保育士と保護者と両面から見えてくる保育を巡る状況についてお話がありました。

また、保育士であり父である林さんからは、家でわが子と過ごす時間よりも、保育園の子どもたちと過ごす時間が長く、家でも保育園での保育について考える時間が長くなってしまうことや、自分の子どもの保育参観や行事には参加できないことがあること、コロナ禍でも、わが子を感染リスクの高い保育園に預けて、自分も感染リスクの高い職場に出勤していること、女性の低賃金という社会構造がある中で、生活設計のことを考えると男性保育士が辞めざるを得なくなることなど、保育士保護者、男性保育士としての葛藤についてお話いただきました。

❑障害のある子を育てて

最後に福山型先天性筋ジストロフィーの長女を育てる母である佐井さんからは、長女が２歳のときにいくつも民間の保育園から入園を断られる経験をして、公立保育所だけが長女の「存在」を受け入れてくれたこと、公立保育所では子どもたちが長女を「普通」に迎え入れ、車椅子で行けないところがあると、



昨年度に引き続き、オンラインでの講演会となりました。

どうしたらいいかみんなで考えてくれたエピソード、卒園後の放課後デイサービスは車椅子では入れないところが多いこと、国や行政により障害児や病児は「居ないこと」にされ、居場所を見つけるだけで大変苦労するシステムになっていること、保育所の入所ポイント制では就労よりも介護が低く設定されていることなど、障害のある子どもを育てることで直面する社会の姿勢や困難さについてお話がありました。

❑ケアを大切にする社会へ

第３部では保護者のスピーチを踏まえて岡野さんから、ケアは身体的な「活動」だけではなく特定の個人のニーズに応える「営み」であり、よりよい関係を目指す「実践」でもあることや、ケアの与え手と受け手が対等な関係にはないケア労働の特殊性、さらには、こうした特殊性から資本主義の論理ではケアを正当に評価できないこと、しかし、政治や経済はこうしたケアにこそ倣うべきで、誰しもが安心してケアし・ケアされる関係性を支える政治を求めていくことが大事であることなどをお話しいただきました。

閉会挨拶で市保連の田中智子会長が「こんなに子育てが大変なのは保護者の自己責任ではないということがよく理解できた」と述べたように、保育や子育てといったケアを大切にする政治を実現していくために、市保連としても今後も保護者の声を集め、発信していきたいとあらためて確認することができた講演会となりました。

岡野さんのスライド資料と、保護者の皆さんのスピーチ原稿は市保連のホームページに掲載しています。より詳しい内容をご覧になりたい方は、ぜひご覧ください。

子育て世帯の実情を踏まえた保育・子育て施策を！

～京都市・京都市会へ要望・陳情を行いました～

これまでにも『市保連ニュース』等でお伝えしてきた通り、京都市では現在、「行財政改革」の一環として、保育・子育て施策の縮小や、保護者負担の増加が検討されています。

これに関わって、２月 15 日に市保連から京都市への要望書と、京都市会（市議会）への陳情書を提出しました。

市保連では毎年、保護者と京都市の懇談の機会を設けており、これに合わせて市への要望書を提出してきました。今年度は残念ながら京都市の都合により懇談会を開催できなくなってしまいましたが、要望書には例年同様の保育環境の向上を求める項目に加えて、コロナ禍で相次ぐ休園や登園自粛への対応を求める内容を盛り込みました。

また、市会への陳情書では、京都市の来年度予算の審議などが行われる２月議会（２月～３月）に向けて、今後、保育料をはじめとする保護者負担を増やさないことや、子育て・保育施策の決定過程に子育て世帯の意見を反映する仕組みを設けることなどを求めました。

提出後は、陳情を審査する市会の教育福祉委員会に所属される全会派の市会議員を回り、市への要望や市会への陳情について説明するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大が長期化するなかでの子育て世帯の実状などを訴えました。

今回の２月議会には、市保連のほか、２つの保育園保園保護者会等からも同様の陳情書が提出され、議員への説明も保護者の皆さんと一緒に行ないました。今後もこのような機会を設けたいと思いますので、京都市会への陳情を考えているという方々、京都市や市会議員に意見を伝えたいという方々（保護者会としてだけでなく、保護者個人や有志の方々でも可能です）、そして一緒に活動していきたい！という方々は、ぜひお声掛けください。

保護者と京都市との懇談会を開催します

～京都市の保育について、言いたいこと、訊きたいことはありませんか？～

日時：３月　日（　）

会場：京

対象：保　　どなたでも参加可能です

※　詳細は市保連事務局へお問い合わせください

京都市の都合により本年度は中止します

■今回、陳情書の提出と市会議員への説明に一緒に行った保護者の方に、感想を寄せていただきました。

私自身、人生で初めて市議会に提出する陳情書を作成しました。一市民として、困っている時、声を挙げる手段として、このような形があることを最近知ったところでした。会派回りをして、直接議員さんともお話が出来ました。議員さんにより、様々な受け止め方がありましたが、私からも意見を投げかけさせていただきました。

「自営業の保護者で、突然子どもの通う保育園が休園となり、仕事を休まざるを得ない時、それに対して国や自治体からの保障がないので収入が減り困っている保護者は多いのではないか。私自身、ピアノ教室をしているので、生徒さん側も休園や学級閉鎖等でお休みが相次ぎ、その面でも収入は減っている状況です。休園の際も安心して仕事を休めるように保障を考えていただくか、休園の際も子どもを安心して預けられる代替保育制度を考えて欲しい」という内容です。

ある会派の議員さんは、「国から打ち出されている助成金制度で保障が適用出来るかもしれないからこちらに問い合わせてみはったらどうでしょう」と、資料をくださいました。顔を向き合わせてお話しする事で、親身に聞いて下さったと感じました。文章の受け取りだけでは伝わらない生の声を、こうして直接お伝えできることはとても貴重な機会で大切だと思います。声を挙げていく手段としてこういった形があることを、もっと沢山の方に知ってもらいたいなと感じました。子育てをする親として、本当に困窮されている保護者の方の声を、もっと拾えるようこれからも模索していきたいと思います。

陳情・要望書の内容を会議でしっかり検討して頂ける事を切に願っております。ありがとうございました。

緊急声明

子どもたちに保育の質を確保するため、補助金削減の中止を求めます！

3月25日の京都市会で、民間保育園への補助金の削減を含む令和4年度予算が可決されました。今回の補助金の削減は、保育の質の低下を招き、子どもたちに悪影響を与える恐れがあるため、保護者としても容認できません。

今回の決定について、京都市保育園保護者会連合協議会として、以下の声明を発表します。

京都市は令和4年度から民間の保育園に対する補助金の削減を進めることを決めました。総額は約13億円、約80%の保育園が削減対象となり、2～3,000万円を超える削減となる園も少なくありません。

保育制度に対する私たち保護者の願いは、大きく分ければ、保育園に入れること、安心できる保育の質の確保、経済的な負担の軽減の3点です。これらの願いは、保護者の置かれた立場によって優先度が変わりうるものですが、なかでも子どもの日々の生活に関わる「保育の質の確保」は最も重要であり、子どもたちが保育園で健やかに成長できることは、保護者にとって一番の願いです。そして、日々の生活を通じて最も影響を受ける子どもたちは、自分から声を上げることはできません。

今回の補助金の削減は、例えば2,000万円の削減となる園では4、5人分の保育士の給与が無くなってしまうほどの大きな影響があります。日々献身的に子どもたちの健やかな成長を支えてくださる保育園の先生方に対して、京都市がどうしてこのような対応されるのか保護者として全く理解ができません。保育園の先生方はコロナ禍でも感染リスクの不安を抱えながら、子どもたちの健やか成長と保護者の就労を支えてくれました。

また、特にベテランの先生が多い保育園ほど減額が大きくなります。ベテランの先生方は子育て経験のある方も多く、保護者としていろんな相談ができる、かけがえのない本当に頼れる存在です。今回の補助金の削減はベテランの先生方の存在を軽視するもので、保護者として全く賛同できません。若手の先生たちもこれまでのような昇給の見込みがなくなり、早期退職を選択するようになれば、将来に向けても質の高い保育が失われていくことになります。

さらに、補助金の削減によって、給食の質が下がったり、アレルギー対応が難しくなったり、保育士の余裕が無くなり障害児保育の受け入れが難しくなったりするなど、ほかにも様々な影響が考えられます。

保育学の研究では、保育の質は先生たちの労働条件に左右されると言われています。今回の補助金削減は京都市が実施する公的保育の質の低下を招き、子どもたちに悪影響を及ぼします。しかしながら、京都市から保護者への説明は一切ありません。

私たち保護者は、京都市に対して、令和4年度からの補助金の削減を中止することを強く求めるとともに、保育園の先生たちが将来に亘り安心して働き続けられるように、昇給を保障する仕組みを作ることを求めます。

2022年3月31日

京都市保育園保護者会連合協議会

寄稿　外国出身保護者に対する保育園からの情報提供について

朱い実保育園保護者
那須ダグバ 潤子

情報提供の課題

2021 年４月、京都市左京区の朱い実保育園保護者会において、ある提案を行いました。それは、外国出身保護者への情報提供について、より良い方法を考えようというものです。

朱い実保育園では外国にルーツをもつ保護者、子どもが毎年複数入園して来られます。京都大学の敷地内にあり、京都大学の関係者が設立に携わった保育園であることから、以前から外国にルーツをもつ人たちが利用する機会が多い保育園でした。

しかしそれでも、保育園から提供される資料はすべて日本語であり、保護者が子どもたちの様子を知ることのできる日誌もすべて日本語で手書きされています。そのため、保育園に子どもを預ける外国出身保護者がそれらをすべて理解できていたのかどうかは曖昧でした。また、クラス会をはじめ、保護者が主体的に関わっていかなければならない園の行事などについても、日本語の読み書きが難しい外国出身保護者が、これまでにどれくらい理解してこられたのかを知るすべはありませんでした。

主体的な参加のために

そもそもなぜ、外国出身保護者への情報提供に関する提案を行ったのかというと、私自身の経験がきっかけです。

私はナイジェリア国籍をもつ夫と娘の３人暮らしで、娘が３ヵ月のときから朱い実保育園にお世話になっています。私自身も 1975 年から朱い実保育園で育ててもらった卒園児ですが、いつも保育園には色んな国の大人がいたなという思い出が残っています。そんな私が日本語の読み書きを全くできない夫と共に保育園を利用するようになり、気づいたことがありました。「読めないから、わからないから、送迎以外のことは関わらない、参加しない」という夫の姿勢です。「ここは君の国だから君が理解していればいい」という言葉を何度も言われ、ふと考えたのが、ではどうすれば主体的に参加する気になるのだろうかということでした。「参加しない」のではなく、「参加できない」のではないかと考えたわけです。そこから私の模索が始まりました。

情報バリアフリーに向けて

言うまでもありませんが、子育ては保護者ひとりひとりが主体的に関わるものだと思います。文化や言語が異なるからといって、子どもを預ける保育園のことを知らなくても良いとは、私には考えられませんでした。

そこで、朱い実保育園の保護者に相談し、調査をしてみることから始めました。京都市内の保育園に子どもを預けている保護者を対象に、アンケート調査とインタビュー調査をしてみました。調査の結果をまずはパンフレットにまとめましたので、ぜひ皆さんに見ていただきたいと思います。

日本では、これからますます外国にルーツをもつ子どもや大人が増えます。保育園での情報バリアフリーに向けて、皆さんと議論しながら、少しずつでもできることから始められるといいなと考えています。



那須ダグバ潤子さんの研究チームが作成されたパンフレット（日本語版、英語版）は、以下の URL（右の QR コードよりアクセスできます）から閲覧可能です。希望される方にはパンフレットをお渡しすることも可能とのことです。パンフレットを使用される際は那須ダグバさんへご連絡ください（nasu. junko@kuas. ac. jp）。

■URL：https://drive.google.com/drive/folders/19P9hjHtQmMjMisdiEN_YR9oZMZGG-oNA?usp=sharing

保育園＆保護者 数珠つなぎ

市保連に加盟いただいている保護者会の様々な活動や、仕事や生活と子育てを両立させる保護者の苦労や本音をつなぐ「保育園&保護者 数珠つなぎ」コーナー。

今回は上京区の心月保育園（運営: 社会福祉法人衆善会）の保護者会をご紹介いただきます。



心月保育園は上京区、相国寺の塔頭、慈雲院(じうんいん)の中にあります。定員 60 名と乳幼児併設園としては比較的小規模で、乳児の花組、星組、幼児の雪組、小森（ちいもり）組、大森（おおもり）組の５クラスがあります。

上京区といっても北区との境で、最寄りの地下鉄烏丸線鞍馬口駅から徒歩５分ほどの、烏丸通から東に入った好立地にあります。静かで手入れの行き届いたお寺の境内を通り、季節の花々に迎えられ、毎朝気持ちよく登園させていただいています。エル（L）字型の園庭はさほど広くはないのですが、ブルーベリーやグミの実がなり、小さな畑では季節の野菜がよく育っています。

園児たちは朝夕、遊具や三輪車、砂遊びなどを楽しみ、天気の良い日はよくお散歩に連れて行ってもらいます。近くの公園や神社、相国寺、御所、鴨川河川敷、植物園、船岡山は子どもたちにとってなじみ深い場所です。一年を通してリズム遊びでしなやかな身体を作り、夏はプール遊び、秋には大文字山をはじめ、近くの山に登っています。保育園の手作り給食は、化学的な添加物を避け安全な食材を吟味して作っていただいていて、クッキング保育も旬の材料を使って行われています。

我が家の息子は、１歳の花組から入園し、５年間保育を受け今月卒園を迎えました。小規模な園だからこそ、ひとりひとりの園児、保護者の思いをしっかり受け止めて、ほっこり見守る保育をしていただいたと実感しています。園長先生や担任の先生には、家庭や育児の相談に度々乗っていただき、心強かったです。担任の先生は毎年、保育内容に工夫を凝らして園児たちに寄り添っていただきました。

息子は、園庭で裸足で泥んこになってお友達と遊ぶことや、プールでの水遊びが大好きでした。登園の際、小森組（年中）までほぼ毎朝別れを惜しんで泣かれましたが、お決まりのように先生に抱っこしてもらい、親の姿が見えなくなるとケロッとしていたようでした。

リズム遊びやお散歩での長歩きが苦手だった時期もありましたが、そんな時も、見ているだけでいいよと優しくおっしゃっていただいたり、先生と手をつないで先頭を一緒に歩かせてもらったりしていたようです。折り紙や制作も必要時には個別にていねいにサポートいただきました。

みんなの憧れの大森さんになるころから、体力、やる気、自信もつきはじめ、色々なことに挑戦できるようになりました。保育園で貴重な経験をたくさんし、優しく気心知れたお友達と助け合って、たくましく育ってくれた子どもたち。昨日できなかったことが、突然できるようになり感心する毎日です。

心月保育園も、コロナ禍の影響を大きく受け、保育園の多くの行事が中止となりましたが、話し合いを重ね、先生方の努力と工夫のおかげで、いろいろな体験をさせていただきました。クラス懇談会が実施できない時期もあり、日々の保育が通常よりも見えにくく、保護者と保育園との交流も図りにくい状況だからこそ、保護者会が保育園と密に連絡を取り合い、協力していきたいと思っています。

保護者会主催行事の春の親子遠足、心月秋祭り等も中止となりましたが、そんな中でもできることをしようと、今年取り組んだのが、保護者会倉庫の大掃除や、クリスマスの作品作り（各家庭でクリスマスの飾りを園児に作成してもらって、保育園のツリーに飾っていただきました）でした。また、行事中止のため使用しなかった保護者会費の一部を施設協力費として保育園に寄付し、空気清浄機や消毒液などの消耗品を購入していただきました。緊急事態宣言中の必要時の保護者会は、リモートやハイブリッドで開催していました。

今後もコロナ禍の保護者会活動は、できることはなにか、と検討するのに時間と労力を要すると思います。行事の中止で保護者会の伝統をつなぐことが難しくなっているようにも感じますが、その年度ごとの保護者会で、園児にも保育園全体にも良いこと、できることを行っていってほしいと願っています。保護者会の活動（市保連の活動、他園との交流も含む）は、一見負担が大きいのですが、それ以上に保護者自身、園児、保育園に有益な活動だと思います。

令和３年度心月保育園保護者会
会長　石橋



保護者の学習会・講演会、市保連がお手伝いします！

保育や子育て、子どもの発達のことなどについて、保護者同士で一緒に考えたり、理解を深め合ったりするため、各保護者会で保護者向けの学習会や講演会を企画されることも多いのではないでしょうか。

でも、「企画を立てたいけど、どんなテーマでやれば良いのか分からない」、「どんな講師を呼んだら良いのか、どうやって呼んだら良いのか分からない」といった悩みもあるようです。

市保連では、企画やテーマについてのご相談に応じたり、関係団体とも協力しながら講師を紹介・派遣したりするなど、学習会・講演会のコーディネートをお手伝いしています。

各保護者会の総会などに合わせたミニ学習会なども可能です。まずはご相談ください！

学習会・講演会のテーマ例

- 保育制度や保育の質について
- 子育ての悩みを共有する
- 子どもの成長・発達を学ぶ
- 保護者会活動の意義と保護者の参画
- 子どもの権利を考える
- 子どもの性教育について
- 子どもと学ぶ防災

など

2021 年度第 5 回保護者会活動交流会のお知らせ

下記の通り、2021 年度第 5 回市保連保護者会活動交流会を開催します。

日時：2022 年 4 月 22 日（金）19 時から 21 時
会場：ラボール京都（京都労働者総合会館）6 階北会議室

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン（Zoomを使用）での参加も可能です。オンライン参加をご希望の方は、4月19日（火）までに市保連事務局へメール（info@shihoren.net）にてご連絡下さい。折り返し、事務局よりZoomミーティングID・配布資料などをお送りします。
- なお、感染状況等により開催方法を変更する場合があります。その際は、市保連HPにご案内を掲載するとともに、参加をお申し込みいただいている皆さんに事務局よりご連絡を差し上げます。
- 各園の保護者会役員が抱える悩みを相談し合い、他の保育園の状況についても知り、交流する機会ともなります。未加盟の保護者会、保護者個人でのオブザーバー参加も歓迎します。



京都市中京区壬生仙念町 30-2
阪急電車「西院駅」／京福電鉄「西院駅」／京都市バス「四条御前通」より、すぐ

●お仕事と子育てで大変お忙しい日々と思いますが、皆さまぜひご参加ください！●

★市保連メーリングリストご登録のお願い★

京都市保育園保護者会連合協議会（市保連）では保護者・保護者会相互の交流や情報交換のため、メーリングリストを設けています。この機会にぜひご登録ください。

登録をご希望の方は、保育園名・お名前と、「メーリングリスト登録希望」と記入したメールを、info@shihoren.net（市保連事務局）宛にお送りください。

『市保連ニュース』のバックナンバーは、市保連ホームページで公開中です！